

おかげさまで、 国語

題字
国語部長
磯村 彰久先生



岡崎市現職研修委員会
国語部

令和5年11月1日(水)
第2号

人知の砦——言語力の育成——

現職研修委員会 国語部長 河合 由起子

二〇二六年開校予定の三重県桑名市の小中一貫校、多度学園で、人工知能（AI）を活用した校歌の制作が始まっている。まずは、多度地区の児童、生徒、卒業生、保護者、地域に在住・在勤の方を対象に、校歌に取り入れたいキーワードや曲調のイメージを募集。それを基にAIが作詞し、校歌企画会議で歌詞を調整。その後AIが作曲し、さらに企画会議で練り上げていく運びとのことである。曲の一部を変える際は、全体の構造が崩れないメロディーをAIが提案できるそうだ。

私の中学時代や若い頃に勤務し

た中学校には、学級歌があった。各学級の学級歌制作委員が、級友から挙がった多岐にわたる言葉を取捨選択し、独自の歌詞と曲にまとめあげるのだ。制作委員はもとより、支援する音楽担当教師の労力は計り知れなかった。

学級歌の制作過程では、多くの人の思いを反映させようと調整するところに労を要する。この部分でAIを活用し、焦点を絞って人の英知を注ぐことは、共同制作において効率がよい。肝心なのは、AIの提案を吟味する感性や能力を人が身に付けていて、建設的な提案や議論ができることであろう。

文科省が小学校での生成AIの活用に慎重な構えを示すのは、懸案事項を避けるとともに、自ら考えて判断する力や、学びに向かう力の育成を重視するからであろう。国語科が担う確かな読み書きの能力は、思考の基盤となる。語感を磨くことは、細部に気付く力を研ぎ澄まし、深い学びにつながる。そして、子供の生涯を支える。そんな気概で、言語力を育む国語科の授業を展開したい。

近い将来、AIの力を借りれば、事実をまとめる文章は楽に書けるようになるかもしれない。しかし、もてる知識を使って自分の考えを組み合わせる力や、感動や思いを伝えるための発想力を発揮できてこそ、伝える意義や、伝わる喜びを味わえるのではなからうか。授業で実感させたいものである。

私の知り合いに、個性的な例え話をする人がいる。何気ない状況を説明するのに、「まるで」「例えば」と、それまでの話題から飛躍した事象を取り上げる。それが言い得て妙。くすりと笑えて、感心させられる。説得上手な人もいる。結論を述べた後、理由や根拠を端的に過不足なく添えてくれる。その話しぶりに信頼感が増す。また、悩みを抱えていらだったり押し黙ったりしている子供に対し、その感情や内容、原因を分析して言語化できる人がいる。子供は自分の心情や状況を自覚するとともに、分かってくれたと安心する。どの人も、心の通う言葉を生活で使いこなしている教師である。身に付けた言語力が生涯にわたって生かせることを、身をもって子供に示している。

AIを操り、人知を結集して言葉を紡ぎ出す校歌企画会議が、心躍る楽しいものであってほしい。そうして仕上がる校歌は、多度地区の人々の英知の結晶として、味わい深いものになるだろう。学級歌がそうであったように。

授業力・教師力アップセミナー
「基礎編」

七月二十一日（金）、総合学習センターにて、授業力・教師力アップセミナー【基礎編】が行われました。研修①は、「もう困らない！説明的文章の基礎・基本」と題して、小学校は石田勝重先生、中学校は高橋遼先生のご指導の下、説明的文章について学びました。また、研修②では、「ブックトーク、パネルシアターなどの読書指導のアイデア紹介と実習」と題して、近藤秀子先生のご指導の下、読書指導のアイデアについて学びました。研修③では、「あなたもできる！子供が変わる書写指導の基礎・基本」と題し、市川岸江先生のご指導の下、実践を交えながら、書写の授業の基本を学びました。

【参加者の声】

研修①では、説明文の基礎を学ぶだけでなく、実際の教材を批判的に読むことで、子供の気持ちに共感することができました。研修②では、パネルシアターやエプロンシアターに触れる機会をいただきました。研修③では書写を教える際の語句の確認や指導のポイントなど、次の日から授業に役立てることができるアイデアや知識を学ぶことができました。

三河教育研究会 国語部会
夏季研修会

八月四日（金）新城文化会館にて、三河教育研究大会国語部会・夏季研修会が開催されました。分科会では、三河地区の七名の提案者による実践が発表されました。参加者は研究協議を通して、見識を深めることができました。岡崎市からは、次井祥太先生（翔南中）が実践発表を行いました。また、講演会では、絵本作家の小林豊氏をお招きし、「わたしの『せかいいちうつくしいぼくの村』」という演題で講演を行っていただきました。各国を旅して絵本の普及活動を行った体験をお話してくださいました。自分の作品が教材として扱われることに対する作者の願いを知るとともに、授業における問いかけの工夫についても学ぶことができました。

【参加者の声】

小林氏のお話の中の、「国語は自分の物語に対する思いをもつための教科」という言葉がとても印象に残りました。作者が作品に込めた思いの読み取りだけではなく、作品に対する子供の素直な思いを大切に、授業を行っていききたいと思えます。

文集おかげさき 第61集
多くのご購読を

自分の日常に起きた出来事を見つめ、考えを深めた作品など、岡崎市全小中学校の児童生徒の作文・詩・中学生の主張コンクール意見文・市書き初め展入選作品等、優れた作品が数多く掲載されています。

〈価格〉九〇〇円

〈問い合わせ先〉

六ツ美南部小 藤村 奈央子

〈注文締切〉

第一次 令和五年十二月八日

第二次 令和六年一月二十六日

岡崎市小中学校書き初め展

優れた諸作品の鑑賞を通して、書写技能を高めることができるよう、岡崎市全小中学校、附属岡崎小学校・中学校、聾学校の児童生徒の代表作品を展示します。

〈会期〉令和六年

一月二十日（土）

二十一日（日）

午前十時～午後五時半

最終日は午後三時半まで

〈会場〉岡崎市美術館



国語教育自主研修サークル
「さわらびの会」

十月十日（火）福岡小学校にて、第二回さわらびの会が行われました。「国語科の授業でICT機器を生かす」をテーマに、前半はスクリーンタクトやデジタル教科書、電子黒板を活用した授業実践が発表されました。後半は、学年ごとにグループに分かれて、効果的なICT機器の使い方などについて、活発な意見交換を行いました。



【参加者の声】

先生方の実践を聞き、まずは自分で試し、慣れていくことが必要だと感じました。今の子供たちは情報機器の利用に慣れていると考えます。ICT機器を活用することで、勉強が苦手な子も、授業に参加する意欲が高まるかもしれないと思うと、積極的に活用し、よりよい授業を目指したいと思えました。